

戦時下と私

岡 健（大正 15 年生まれ）

昭和 12 年 7 月、日支事変が勃発した。時に私は小学校 6 年生で、校長先生から週に 1 時間「修身」を教えて頂いた。授業は「教育勅語」の解説・書写・暗唱であった。「君に忠、親に孝、一旦緩急には義勇公に奉ずる」が頭に残る。木造校舎の 2 階外板に「忠君愛国・堅忍持久」の二大看板が掲げられ、その看板を目に軍人となることを誓った。

当時敵国支那を眠れる豚、その国の人達を「チャンコロ」と蔑視していた。

昭和 12 年 11 月に大本営が設置され、12 月 13 日に日本軍が南京占領の発表があつて、早々と軍歌を唄い戦勝提灯行列をやった。

そのうちに召集令状による出征兵士を子民総出で鎮守様に武運長久を祈り、日の丸の小旗で送り出した。家に宝（親、妻子）を残して戦場行きの出征兵士は、心で泣いても日本男児の本懐と笑顔で勇んで行った姿が悲しい思い出である。

多分、昭和 14 年の夏です。母方の Y 叔父が思いがけなく復讐し私の家に逗留した。叔父は立派な体格で歴戦の兵士の顔つきで、南京陥落と支那国内での日本軍の横暴を話し、それは真に迫るもので軍に何か嫌な気がしたものである。

大本営は毎日のように戦果を発表して国民の戦意を煽った。戦争が続く中で昭和 16 年 12 月 8 日、大本営緊急発表「日本海軍の真珠湾攻撃・対米英宣戦布告」があつた。

時に私は安塚農学校 2 年生で、鬼畜米英撃滅の大運動が展開された。英語は敵国語でその授業がなくなり、軍事教練が大幅に増えた。

17 年 12 月繰上げ農学校卒業。18 年 1 月、三兄は軍属海軍巡査で海南島へ渡った。二兄は師範学校卒の海軍現役で同年 2 月に除隊し、太平洋戦争の緒戦の勝利から敗色が濃いガタルカナル島の補給戦を話してくれた。

18 年 4 月、私は新潟県下で選抜され、横須賀海軍航空技術工廠・射撃部設計課に配置。軍服の海軍人から 1 人用の大机と 1 枚の地図、初めて見る計器、筆記用具を渡された。

例示を見ると、直線・曲線運動・弾道など高等数学の応用で、農学校卒の私の力で出来なくて隣人に聞いてみたがまったく分からないとのことで、数学力の必要を痛感した。

どうする事もできなくて、予科練志願を決意し私は海軍工廠を逃げだした。そして、家の農業を手伝いながら数学の猛勉強をした。9 月、予科練合格「舞志飛第 6254 番・岡健」の通知を受け身震いした。

Y 叔父が古刀を軍刀に装備し、それを父から頂き、叔母たちから寄せ書きの日章旗と千人針をもらった。それらを身に付けて昭和 18 年 11 月 30 日軍歌の列に送られ壮途についた。

ふるさとの父母よ山河よ永久に 戦に征かんわが身一つは

浦川原駅で汽車に乗り、窓で別れる長兄の赤くした目の涙を忘れることができない。

昭和 18 年 12 月 1 日、三重海軍航空隊奈良分遣隊に入隊、同日・第 13 期甲種飛行予科練習生ヲ命ス、同日・海軍二等飛行兵ヲ命ス。年齢 17 歳 10 月、志願兵の血潮は疼き、この日から予科練の訓練が始まった。

訓練は飛行戦闘に耐える強靱な体力づくりと、死して止まない攻撃精神の育成に合わせ飛行技能の向上が目標であった。

前期六月間は特別基礎訓練で、6 時（夏 5 時）起床、私は 54 分隊 2 班・同期 15,000 人の各分隊・班の競争。午前は発動機・機体理論、弾道計算、午後は徒手体操・柔剣道・逮捕術・棒倒し・手旗信号でモールス信号には苦勞した。午後の訓練には何時でも「齒を食いしばれ」と類に鉄拳が来て、何事も負けは許されなかった。

夕方は朝からの訓練状況の総括として、分隊教官から「バツタ」といって「軍人精神注入棒」（櫂の太い棒）で力まかせに尻を叩かれた。毎日ではないが気絶するほど痛かった。

夜は 2 時間の温習後に次の五省を班員 32 名で斉唱し、九時巡検・就床消灯で眠りこけた。

五省

- 一、至誠に忤るなかりしか
- 一、言行に恥ずるなかりしか
- 一、努力に憾みなかりしか
- 一、氣力に欠くるなかりしか
- 一、不精に恒るなかりしか

適性検査で目指した操縦兵に決まり、19 年 6 月琵琶湖西岸の滋賀海軍航空隊 13 分隊 2 班に配属となった。時に海軍飛行兵長。

7、8 月になると、年齢を重ねた補充兵や予備学生が次々と入隊してきた。そして、日夜厳しい訓練と罰直を受けており、気の毒に思ったものである。

飛行場には 1 機の練習機もなく、私たちの訓練は模擬練習機の操縦とグライダー訓練が主なことで、時には湖で短艇とヨット練習で楽しいものであったが、実戦兵器は皆無で残念であった。この間に多くの戦友が水中特攻要員に転属となった。私は、滋賀空本土防衛飛行近江隊（特攻要員）員で、20 年 9 月 1 日、海軍一等飛行兵曹にて現役満期となった。

戦況不明。日本の上空を米軍の B29 の銀翼に切磋琢磨したものだ。1 年 9 か月の飛行兵は、顧みて戦争の不正を心から反省している。